対象：管理者 / サービス管理責任者 / 指導担当者向け

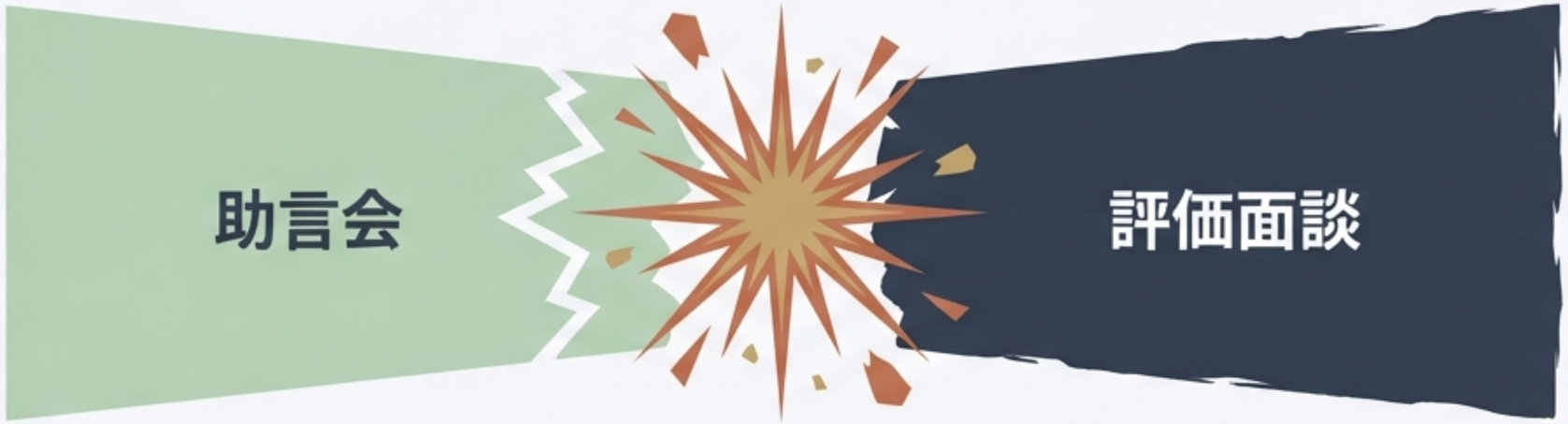
支援者の成長を加速させる組織装置

スーパービジョン（SV）導入実践ガイド



NotebookLM

多くの福祉現場が陥る「指導」の罠



根本的課題:「助言会」と「評価面談」の混在が、指導の失敗を招く。

初回実施: 目的共有が不足し、極度の緊張状態を生む

継続運用: 日程が固定されず、徐々に優先順位が下がり単発で終わる

成果確認: 気づきで終わり、現場での行動変化（実装）が追えない

NotebookLM

SVは「評価」ではなく「実践振り返りの場」である

大前提：安心して語れる「場」の設計が、支援者の成長速度を直接的に左右する。





SVを成功に導く3つの原則

1. 目的の分離：
指導・評価と完全に切り離す

2. 定例運用での継続：
業務に組み込み習慣化する

3. 実務への接続：
振り返りを現場の行動へ変換する

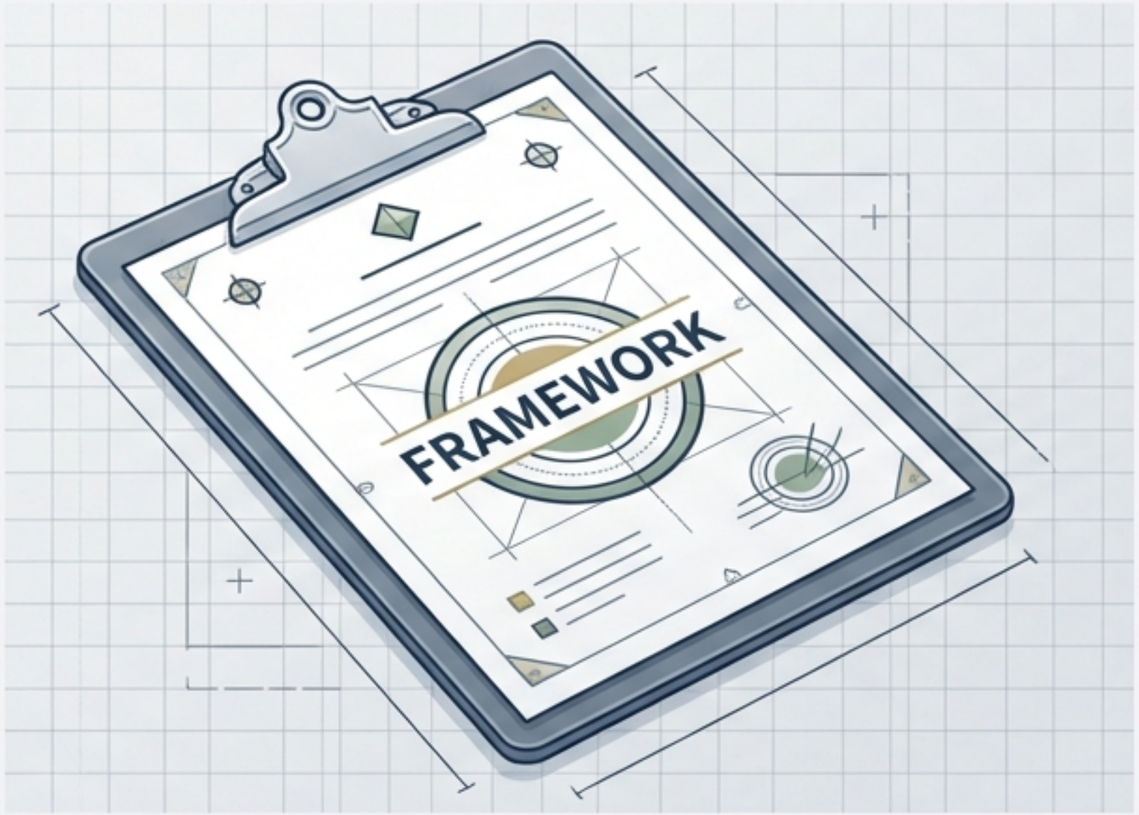
NotebookLM

成長を促すSV実装への5つのステップ



NotebookLM

Step 1: 不安を排除する「目的と枠組み」の設定



ルール化による心理的安全性：対象者・頻度・守秘範囲・記録方法を明確に文書化（明文化）することで、初回実施時の緊張と不安を防ぐ。

明文化すべき4項目

対象： 誰がSVを受けるのか	**頻度：** いつ、どの程度のペースで実施するか
守秘範囲： どこまでの情報が保護されるか	**記録：** どのような形式で記録を残すか

NotebookLM

Step 2: 対話を引き出す「スーパーバイザー」の育成

指導者の経験共有ではなく、構造化された対話: 技術を統一し、属人的な指導から脱却する。

標準化すべき3つのコアスキル

聴き方: 相手の思考を妨げず受容する



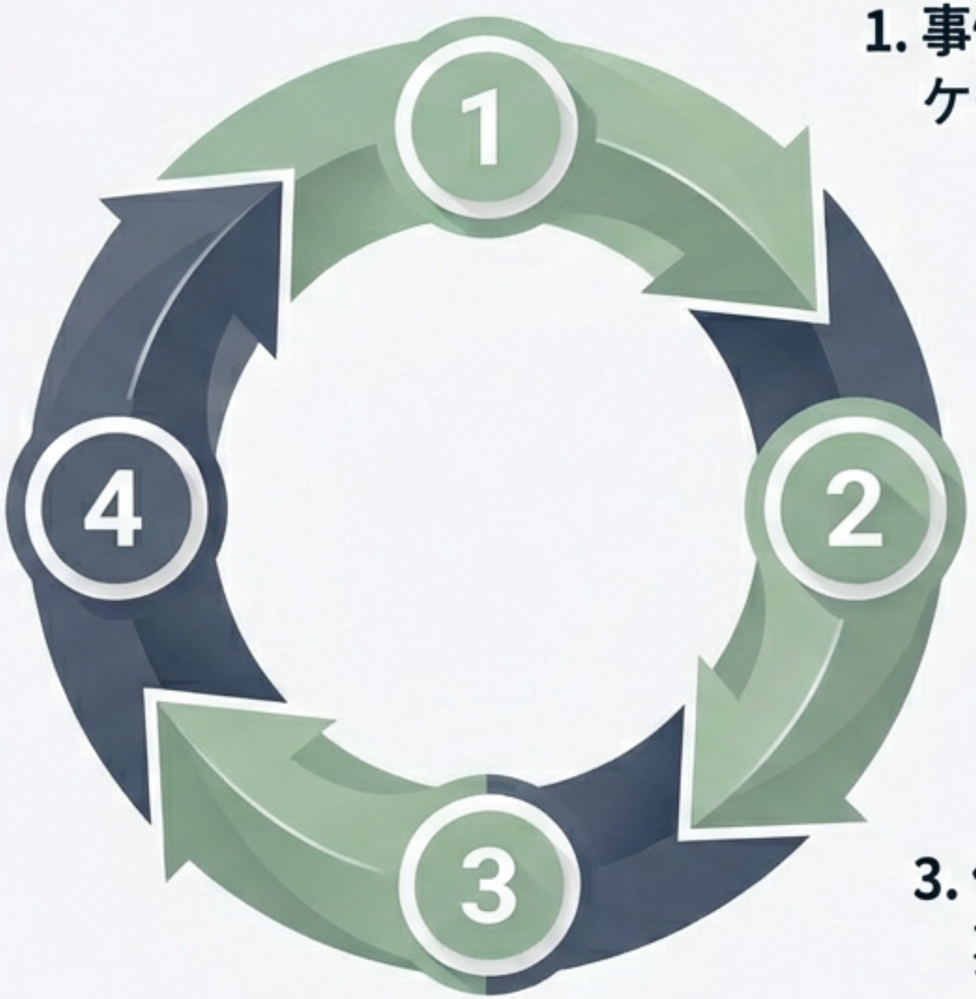
問いかけ: 答えを与えるのではなく、気づきを促す

フィードバック: 客観的事実に基づき、成長を支援する

NotebookLM

Step 3: 実践を深める「4段階のセッション運用」

1. **事例提示:** 現場での具体的なケースを共有する



2. **振り返り:** 支援者の感情や思考のプロセスを紐解く

3. **仮説形成:** うまくいかなかった要因や別の視点を見出す

4. **次行動設定:** 明日からの現場で試す具体的なアクションを決める

NotebookLM

Step 4: 対話を現場の行動に変える「実装フォロー」

SVはセッション終了後からが本番:
語り合い (Talk) だけで終わらせず、現場の行動 (Action) へ変換する。

Session (Talk)



Field Practice (Action)



フォローアップの仕組み

- 次回までの「実践課題」を明確に設定する
- 次回のセッション冒頭で「実施結果」を必ず確認する

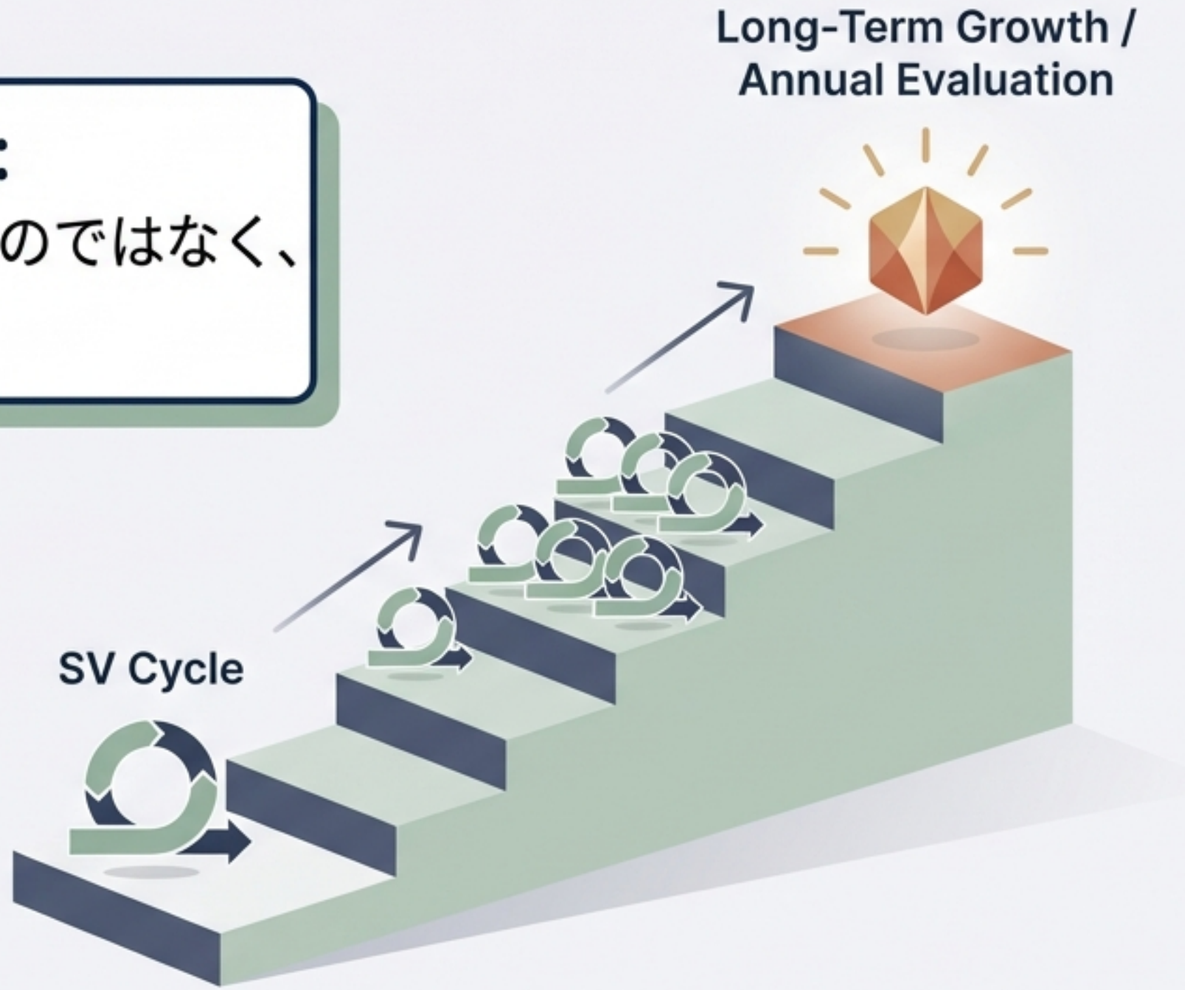
NotebookLM

Step 5: 継続的な成長を可視化する「年次評価への接続」

評価の目的は「査定」ではなく「育成」：
SVでの振り返り内容を直接的な査定に使うのではなく、長期的な成長プロセスの確認に用いる。

運用のポイント

- SV履歴を「育成評価」へ反映させる
- 支援者自身の「継続的な成長」を組織として可視化・承認する



NotebookLM

事例：属人的な指導から組織的な育成へ（AO事業所）

導入前の課題



指導が属人的で、
若手育成が停滞。

実施したアクション:
月1回のSV定例化 /
スーパーバイザー研修の実施 /
実装フォロー記録の導入

導入後の変化



若手のケース対応力が向上。
事業所全体で指導内容の一貫性が改善。

最大の成功要因: SVを「評価」から完全に分離し、純粋な「学習の場」として設計したこと。

NotebookLM

SV運用を阻む3つの罠と回避策

失敗パターン1：指導者の講義になる
現象：対話が減り、学習が浅くなる。

回避策：「問いかけ」中心のファシリテーションに徹する。

失敗パターン2：守秘範囲が曖昧
現象：不安が生じ、本音で安心して語れない。

回避策：セッション開始前に、必ず**情報共有の範囲を明確化**する。

失敗パターン3：行動設定がない
現象：気づきだけで終わり、現場の実践につながらない。

回避策：終了前に必ず**「次回の行動（Next Action）」を１つ決める。**

NotebookLM

SVの定着と成果を測る3つの重要指標（KPI）



指標1: 開催遵守率

定義: 計画どおりの開催割合

(計測頻度: 月次)



指標2: 実装率

定義: 設定行動（実践課題）の実施割合

(計測頻度: 月次)



指標3: 育成進捗率

定義: 対象者の育成目標達成割合

(計測頻度: 半期)

NotebookLM

信頼の基盤となる品質チェックリストと法令対応

運用監査チェックリスト

- [ ] SV目的が文書化されている
- [ ] 定例開催が実施されている
- [ ] セッション記録が整備されている
- [ ] 実装フォローが行われている
- [ ] 育成評価へ接続されている



根拠となる法令・ガイドライン

- 人材育成関連指針
- 障害者総合支援法
- 指定障害福祉サービス運営基準

NotebookLM

SVは、支援者の成長を加速する「組織装置」

スーパービジョンは個人の才能に頼るものではありません。
仕組みで成長を創り出す組織のエンジンです。

定着のための3ヶ条



1. 目的分離



2. 定例運用



3. 実装フォロー

NotebookLM